

駒澤大学学士課程教育の方針（3つのポリシー）

教育の理念

駒澤大学は、仏教の教義並びに曹洞宗立宗の精神に則り、学校教育を行うことを目的として設置されている大学である。この教育とは、時代に流されることなく、その動きを正確に洞察し、自分の進むべき道を自分の力で適切に判断できる素養と、将来その道を歩むのに不可欠な知識・技能・資格を身につけることである。こうした建学の理念を実現するため、幅広い教養と専門分野の体系的な知識、それらを応用する技能、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行う。それにより、十分な基礎力・実践力を身につけ、多様な経験を踏まえ主体的に行動できる力を備え、しなやかで折れない心を持ち、持続可能な社会の発展に寄与する人材の育成を行うことを本学の教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

駒澤大学は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、各学部学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

（DP1）建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

- ・「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。
- ・未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

（DP2）幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

- ・文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。
- ・英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について、社会人に求められる十分なレベルを修得している。

（DP3）課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

- ・修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、自由な発想を用いて解決策を見出すことができる。
- ・社会生活に必要な文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

（DP4）多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

- ・良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。
- ・リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。
- ・国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学修評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と専門知識	◎	◎						
	DP3	課題解決力、表現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を尊重し、協働する力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について－すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために－（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

駒澤大学は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とし、各学部・学科において、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。全学共通科目では、多様な教養科目をバランスよく履修することで学びの基礎を築くとともに、専門教育科目では専門性を高める。全学共通科目と専門教育科目の履修により、学生が多様性のある社会で自ら考えて他者を尊重し、協働しながら、生涯にわたって主体的な学びを実践できるように教育課程を編成する。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 「宗教教育科目」は、仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする。
- 2) 「教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）」は、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを目標とする。
ライフデザイン分野「初年次教育科目」は、高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につけることを目標とする。
ライフデザイン分野「キャリア教育科目」は、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力の育成を目標とする。
- 3) 「外国語科目」は、社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深めることを目標とする。
- 4) 「保健体育科目」は、スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。

- 5) 「駒澤教養パスポート (Komazawa Liberal Arts Program)」プログラムでは、「建学の理念科目」「複数言語教育、外国語教育」「数理教育、自然科学教育、情報教育」「多文化理解教育」「日本語リテラシー教育」「教養ゼミ」を配置して文理融合教育を行うことにより、ディプロマ・ポリシーに掲げる課題発見力、課題解決力を身につけ、多角的な視点と豊かな技術力を有する人材を育成する。
- 6) 専門教育科目は、各学部・学科（専攻）における専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけるとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げる問題解決力、表現力、多様な他者と協働する力などを総合的に育成することを目標とする。初年次には基礎・基本となる導入教育科目を、2年次以降には専門分野の知識を体系的に理解する講義科目、自らの知的好奇心を追求しこれまでに修得した知識を実践する演習科目、修得した知識を実践する実験・実習科目を配置する。また、卒業年次には、学びの集大成として卒業論文（ゼミ論）や卒業研究の作成、または資格試験の受験などを行う。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習・実習科目・教養ゼミにおいては、探究型学修やアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 演習科目（ゼミ）では、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) e ラーニングシステム等の Web システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックなどを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) アセスメント・ポリシーに基づいて、学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。
		初年次教育科目			◎	高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎

	外国語科目		◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める
	保健体育科目				○	スポーツを通じて豊かでゆとりある社会生活を実践する能力を獲得し、生涯にわたる健康の増進や体力の向上を図る。
専門教育科目	導入教育科目		◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。
	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。
	実験科目		◎			実験装置や器具の使い方を身につけ、実際にそれらを使用した研究を行う。
	実習科目		◎	○	○	専門分野の講義で身につけた知識を基に、実地調査や体験学習等を行う。
	演習科目			◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究・資格試験など	○		◎	○	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

駒澤大学は、教育の理念に基づき、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を定め、これらの方針に則った教育課程を学修する資質・能力を有し、実践していく強い意欲のある学生を求めている。

駒澤大学は、駒澤大学の求める学生像として、以下に示す入学前に修得することが望ましい4つの能力を適正かつ公正に評価し、多面的・総合的な視点で各種入学者選抜を行う。

駒澤大学の求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性・多様性・協働性〕

- ・本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。
- ・入学後は、建学の理念に沿い、学業を始めとした多様な活動に失敗を恐れることなく積極的にチャレンジし、粘り強く自己研鑽し続ける意欲がある。
- ・卒業後は、学部・学科で学んだ知識や技能を生かして社会に貢献する意欲がある。

（AP2）入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

- ・文理を問わず高等学校で学習する教科・科目を幅広く身につけている。特に、入学を希望する学部・学科で必要となる教科・科目の知識・技能をよく身につけている。
- ・英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について高等学校卒業程度の運用能力を有している。
- ・地域社会、国際社会及び産業界の動向への関心・問題意識を有している。

（AP3）課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

- ・目標達成・問題解決のため、知識・技能を活用して、情報収集や分析を行い、自ら考えることができる。

- ・分析・研究の成果をレポートやプレゼンテーション等により、分かりやすく他者に伝えることができる。

(AP4) 他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

- ・部活動、留学、ボランティア等の活動を通じ、多様な他者と協働して行う活動において、多様な意見や異なる価値観を生かして最良の結論を見出すため、チームを主導することができる。または、積極的にチームに貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と駒澤大学の求める学生像のマトリクス表

○：重点を置いている			卒業認定・学位授与の方針			
			DP 1	DP 2	DP 3	DP 4
駒澤大学の求める学生像	AP 1	駒澤大学建学の理念への理解	○			
	AP 2	入学前に修得することが望ましい教養		○		
	AP 3	課題解決へのアプローチ			○	
	AP 4	他者と協働する力				○

※求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表は入学者の募集単位で提示する。